

COC ニュースレター

地域に根ざし、世界をみざす。—Center of Community—



COCデイ「ふつうの・くらしの・しあわせ」をみつめるイチニチ

本学は、全学的に地域連携教育を推進しており、持続可能な「ふくし社会」を担う「ふくし・マイスター」養成に取り組んでいます。全学教育センター地域志向科目「知多半島のふくし」の中で実施される「COCデイ」は、大学が位置する知多半島地域の課題解決に取り組むゲスト講師を迎え、この地域の現状や課題に対する理解を深めます。2022年度は、教育・心理学部とともに、「知多半島を映画のコミュニティへ」をテーマに講演会を実施し、3キャンパスから530名の学生が参加しました。

■基調講話 知多半島を映画のコミュニティへ ～『知多半島映画祭』と映像制作を通じた学びの可能性～

「知多半島映画祭」プロデューサー 鈴木 啓介 氏

■グランプリ作品『ただの夏の日』上映会

■クロストーク

松岡 芳佳 氏 (『ただの夏の日』監督)
鈴木 啓介 氏 (「知多半島映画祭」プロデューサー)
小坂 啓史 (日本福祉大学 教育・心理学部教授)



基調講話では、「知多半島映画祭」の鈴木プロデューサーから、10年目を迎えた映画祭の立ち上げ経緯や運営における作品と人とのつながり、作品と地域のつながりといった映画祭の映画コミュニティの広がりを紹介いただきました。後半のクロストークでは、「知多半島映画祭」のグランプリ受賞作品『ただの夏の日』を制作した松岡芳佳監督がオンラインを介して東京から参加して、俳優やロケ地の選定など映画づくりの舞台裏を聞くことができました。

ふくしフィールドワーク実践

知多半島の地域課題を通して多学部で学びあう体験学習の場

全学教育センター地域志向科目「ふくしフィールドワーク実践」では、多職種・多分野連携について地域の主体から実践的に学びます。この科目の特徴は、地域社会での体験学習を重視し、専門の異なる学生がグループで学びあい、地域の様々な関係者との出会いの中で学ぶ多職種連携教育(Inter Professional Learning)の方法をとることです。「事前学習、フィールドワーク、事後学習」を集中的に展開して学びを深めることで「地域を創造していく力」を身につけることを目的としています。2022年度は、東海・半田・美浜の3クラスが開講されました。

美浜クラスでは、「地域特性を考慮した防災の学び」をテーマに、上野間地区にある老人憩いの家を会場に、防災キャンプ体験や民生委員から美浜町における防災・減災活動の現状と課題を学びました。

また「南知多ビーチランド」を運営する株式会社名鉄インプレスの担当者から災害時の避難対応について話を聞き、グループワークを通して様々な視点から美浜町における防災・減災活動について具体的なプランにまとめ発表しました。



ふくし AWARD 2022

地域に根ざし、世界をみざす
「ふくし」の学びを伝えよう!

全学教育センターでは、地域課題や国際課題をテーマにした学びを表現するコンテスト「ふくしAWARD」を開催しています。2022年度は、応募38作品の中から、英語部門大賞にはスポーツ科学部松浦雅人さんの「How to have a healthy relationship with your smartphone」が、日本語部門大賞には、社会福祉学部の山本鈴花さんが代表の「ボードゲームで認知症啓発～認知症の方が暮らしやすい社会に～」が選ばれました。児玉学長からは、作品の講評の中でコロナ禍により学生自身が大変な状況にある中で、甲乙のつけ難いプレゼンテーションであったことに触れ、学生の作品を引用して「これからも共に支え合い、学び合うキャンパスとなっていくことを期待しています」とメッセージが送られました。



地域で活躍する「ふくし・マイスター」

日本福祉大学では、平成26年（2014）年度文部科学省「地（知）の拠点整備推進事業」の採択を契機として、知多半島の関係自治体や課題解決に取り組む地域関係者とともに、「持続可能な『ふくし社会』を担う『ふくし・マイスター』の養成」に取り組んでいます。2022年度は890名（前期卒業生含む）が「ふくし・マイスター」の修了証を授与されました。これまでに3,000名以上の卒業生が「ふくし・マイスター」として、知多半島での学びを活かし、それぞれの地域に貢献・活躍しています。

卒業までに地域志向科目10科目20単位以上
＋
毎年度リフレクション（ふりかえり）を実施



ふくし・マイスター

「ふくし・マイスター」とは、地域の課題を理解するとともに、生涯を通して地域と関わりながら暮らす市民としての基礎力、地域課題を見据える「ふくし」の視点を身に付け、ボランティア精神とリーダーシップを発揮して「身をもって」地域課題の解決に取り組むことができる人のことです。

ぎふCOC+事業の取り組み

～恵那峡のにぎわいと自己成長を遂げる宿泊滞在型インターンシップ企画～

日本福祉大学は、岐阜県へのU・ターン就職促進等による同圏域の地方創生を図る「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」を構成しており、協定に基づき、共通プログラムや本学独自の取組を展開しています。

2022年8月29日から2泊3日で、岐阜県恵那市の地域課題と大学のキャリア支援のニーズをマッチングした課題解決型インターンシップが企画され、学部や学年が異なる12名の学生が参加しました。

初日と2日目は、市職員の案内で観光課題や地元企業の取組について学び、「事前学習」や「現地でのフィールドワーク」を通じて、グループごとに活性化プランをまとめました。3日目には、商工観光部より4名の市職員と本学齋藤副学長が参加する中で報告会が実施されました。学生らは、短い時間で自分たちのアイデアをまとめる難しさを感じながらも、地元の地域活性化を真剣に考える企業や市職員の思いや姿勢に触れる中で自身の職業観を深める貴重な機会を得ました。



トワイライトスクール

日本福祉大学 教育実践研究センターでは、美浜町教育委員会の依頼を受け、奥田小学校にてトワイライトスクールを開催しました。2022年度は、算数（6回開講）、体育（9回開講）、図画工作（3回開講）の3教科で実施しました。

算数は教育・心理学部の板垣賢二教授、図画工作は教育・心理学部の松下明生教授、体育はスポーツ科学部の大宮ともこ准教授が担当しました。

算数を楽しく勉強できるように算数ゲームでの学習や、着色した泥粘土での作品制作、体育館で浮き輪サッカーなど、楽しみながら子ども達への学びを提供できました。実施においては、担当教員のゼミ生や教員志望の学生が複数参加し、奥田小学校の子ども達との交流や、将来の進路を意識した学びを得ることができました。

各科目とも回を重ねるごとに本学の学生と奥田小学校児童との距離が縮まり、打ち解けていくことが実感でき、積極的に参加をしてもらうことができました。



「地域連携型研究助成制度」

「地域連携型研究助成制度」は、本学教員と地域の関係者がともに取り組む実践的研究を支援する本学独自の研究制度です。2022年度は、以下3件が採択され取り組まれました。

【2022年度 地域連携型研究助成採択一覧】

- 「外国籍の子供たちの学習支援につながる子ども食堂の設立と利用者の状況の明確化」
研究代表者：国際福祉開発学部 准教授 コースティ祖父江 先生
- 「亀崎建築塾の他地域への展開による地域活性化と住民主体のまちづくりに関する実践的研究」
研究代表者：健康科学部 准教授 坂口大史 先生
- 「音楽アウトリーチ企画を通じた障害児者支援の質向上」
研究代表者：社会福祉学部 教授 湯原 悦子 先生

研究成果報告書については、過去に採択された研究テーマも含め、下記QRコードよりご覧いただけます。



SDGs × 地域連携

SDGsとは国連が定めた持続可能な開発のための国際目標であり、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。本学は「ふくしの総合大学」として、人がしあわせに生きられる社会の実現と支援をめざし、65年以上にわたり教育と研究を続けてきました。

日本最大級のSDGsイベント SDGs AICHI EXPO 2022

2022年10月6日（木）・7日（金）・8日（土）に愛知県国際展示場で開催されたSDGs AICHI EXPO 2022に日本福祉大学のブース出展を行ないました。本学ブースではポスターやパンフレット、映像の展示や学生、教員による説明を通してSDGs達成にも貢献する日本福祉大学の様々な教育・研究の取り組みを紹介しました。

▶10月7日ビジネスDAY 千頭聡研究室

10月7日には千頭聡研究室が来場し、教員・学生が一体となって来場者にこれまでの取り組みを啓発しました。テレビやラジオ等、様々なメディアを通してSDGs啓発をすすめてきた千頭研究室。これまでの成果物とともに、現在、知多メディアスと取り組みをすすめているプロジェクト『1.5℃の約束-いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。』の取り組みも交えながら広く、様々に展開している活動を広めました。

▶10月8日ファミリーDAY 東内瑠里子ゼミナール「森のようちえんプロジェクト」

10月8日にはファミリーデーとして、東内瑠里子ゼミナールの皆さんが来場し、ワークショップを通してこれまでの取り組みを啓発しました。ワークショップの内容は間伐材やどんぐり、貴重な繭等、自然由来の材料を使ったオブジェづくりです。自然の恵みを感じながら、作り手それぞれの感性を尊重し、発想力や創造力を育む森のようちえんの仕掛けを切り取ったワークショップです。



Let's エコアクション in AICHI ～みんなで楽しく！エコアクション～

2022年11月6日（日）、名鉄太田川駅前の大屋根広場（愛知県東海市）にて愛知県主催の環境イベント「Let's エコアクション in AICHI～みんなで楽しく！エコアクション～」が開催され、千頭研究室が出展しました。

この日は、日曜日ということで家族連れが多いことも考慮し、お子様にも楽しみながら、SDGsに触れていただける「SDGsカルタ」の体験会を行ないました。ゲームを楽しむ子どもたちでブースは大盛り上がり。カルタの取り札の裏にあるゴールやターゲットに困んだ説明を見て、知識を深める様子も見られました。

メインステージで行なわれた「エコアクション宣言」のあと、大村愛知県知事と花田東海市長にも本学ブースへお立ち寄りいただきました。千頭研究室の取り組みについて説明をお聞きいただき、最後には学生らと記念撮影を行いました。

知多半島で広がる協働による持続可能なまちづくり

美浜町

美浜町運動公園（陸上競技場）の工事が進んでいます。



2023年5月時点の現況

美浜町総合計画に基づくまちづくりの一環として、美浜町運動公園整備事業が進められています。現在、2024年度の陸上競技場（日本陸上競技連盟第3種公認）の先行オープンに向けて工事が進められています。運動公園は、名鉄知多奥田駅と本学第2グラウンド・多目的フィールドに隣接した場所に位置し、完成時は約8.3ha（公園全体の計画面積）の広さになり、陸上競技場の他、交流広場、防災施設・駐車場、スポーツ広場、遊具広場、健康広場、多目的広場が整備されます。

「みはまスポーツまちづくり推進室」を設置しました。



2022年4月より本学と美浜町が連携して「みはまスポーツまちづくり推進室」を名鉄知多奥田駅下に設置しました。美浜町で進められている運動公園の整備を契機とし、「スポーツを核としたまちづくり」による地域活性化に向けた取り組みを、本学も美浜町と連携して推進していくことを目指しています。地域と大学が持つ資源を最大限に活用し、スポーツを通じて健康・福祉・教育・経済が運動する取り組みを進めます。運動公園の活用検討や工事の最新情報は、Instagramに掲載をしています。



◀みはまスポーツまちづくり推進室 Instagram

美浜町運動公園 ▶ 公式ホームページ



半田市

作文コンクール「2022 知多の子どもたちからのメッセージ」を実施



半田市・半田市教育委員会との共催事業として、作文コンクール「2022 知多の子どもたちからのメッセージ」を実施し、11月13日に半田キャンパスにて表彰式を執り行いました。

今年度で28回目を迎えるこの作文コンクールは知多半島5市5町の小中学生を対象に実施、752点の応募をいただきました。

共催者である鈴川半田市教育長より、「人として大事にしなければならないことに気づき、それを表現しているところが素晴らしいと感じた。これからの活躍を期待していますので、頑張ってください。」との挨拶をいただきました。

また表彰式では、入賞者を代表して4名の方に登壇いただき、受賞者本人に朗読していただきました。



東海市

東海ハーフマラソン2022への参加・協力



12月11日に太田川駅を発着として東海市内をコースとした「東海ハーフマラソン2022」が開かれ、本学のラグビー部の学生30名と野球部の学生20名が給水所等のボランティアとして参加しました。

大学としても東海キャンパスの施設・設備を大会運営やランナーのために開放するなど全面的に協力を行いました。3年ぶりに開催された本大会には愛知県を中心とした全国各地のランナー4千人以上がエントリーし、多くのランナーが本学の施設を利用しました。

大会運営にあたった市の職員からは、学生のテキパキとした対応にお褒めの言葉をいただきました。また、ラグビー部と野球部の学生も「貴重な経験ができ、やりがいがあった」など、ボランティア活動に充実感を感じていました。



日本福祉大学 地域連携事業推進本部
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35番6
TEL 0569-87-2972 FAX 0569-87-2614（企画政策課）
<http://www.n-fukushi.ac.jp/coc>

